

## ごあいさつ



平素より気仙沼信用金庫に対しまして格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当金庫の経営方針や業務内容、財務内容をはじめ、各種地域支援の取組みをご理解いただくため、「気仙沼信用金庫ディスクロージャー2025」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸甚に存じます。

さて、令和6年度を振り返りますと、日銀が平成28年から導入していたマイナス金利政策の解除、イールドカーブコントロールの完全撤廃により、長らく続いていた低金利時代の終焉により、金利のある世界へと大きく変わり、金融政策の正常化とともにデフレ脱却を強く意識したところがございます。

その一方で、今年1月に発足した米国新政権の政策等も含め、年度後半には金融市場での不透明感が増す動きもございました。

基幹産業の水産業に関しては、カツオの豊漁により地元気仙沼魚市場での生鮮カツオ水揚げ日本一を28年連続で達成、岩手県大船渡市では、サンマ水揚げが数量・金額とも昨年度に引き続き本州一位を達成するなど明るい話題もありました。

しかしながら、地域経済を支える中小零細企業の事業環境においては、震災とコロナ禍による二重債務、歯止めがかからない人口減少や少子高齢化による経済縮小や地価下落など、先行きへの不安感を払拭することができない状況でもありました。

このような中、当金庫運営におきましては、東日本大震災以後、加速度的に進んでいる地域内人口減少などの地域課題に立ち向かうべく、地域振興部を新設し、全事業所訪問を通じ地域の状況ならびに事業者が抱える課題の把握、事業再生支援等をはじめとした事業者の経営力強化に向けた伴走支援に、これまで以上傾注し取り組んでまいりました。

令和7年度におきましても、国内の金融機関を取り巻く環境の変化から、ますます競争が激化していく事が予想されます。

またその中において、当金庫の営業環境につきましても、人口減少による地域経済の縮減懸念など様々な課題が山積しておりますが、これまで以上に金融仲介機能ならびに地域金融機関としての存在感を遺憾なく発揮し、地域の持続的発展に向け役職員一丸となって貢献してまいり所存ですので、会員の皆様方には、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会員皆様方のご健勝での益々のご活躍とご隆盛を心よりお祈り申し上げ、ごあいさつと致します。

令和7年6月

気仙沼信用金庫  
理事長 小山 栄太郎

